

別記様式第5号

論文審査の結果の要旨

| | | | |
|--|---------------------------------|---|-------|
| 報告番号 | 博(医歯薬)甲第 722 号 | 氏名 | 松本 博文 |
| 学位審査委員 | 主査 福岡 順也 副査 中尾 一彦 副査 江口 晋 |    | |
| 論文審査の結果の要旨 | | | |
| <p>1 研究目的の評価 本研究は、消化管癌治療に頻用される 5 FU の代謝関連分子で、ATP-binding cassette トランスポーターである ABCC11/MRP の発現分布を観察し、その機能を解明しようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p> | | | |
| <p>2 研究手法に関する評価 免疫染色的に手術検体や組織アレイを用いて癌における ABCC11/MRP の発現を観察し、定量的 PCR やウェスタンプロットで胃の各領域における発現の違いを検討している。その結果で疑われた ABCC11/MRP とペプシノゲンとの共発現を免疫蛍光染色にて証明し、ペプシノゲン産生細胞株に対して siRNA を用いたノックダウンにより ABCC11/MRP との関連性を証明した研究で、研究手法も妥当である。</p> | | | |
| <p>3 解析・考察の評価 主要な固形癌を横断的に検討し、消化器癌における低発現を 5 FU の効果と関連付けた考察は妥当である。また詳細な発現分布の観察からペプシノゲンとの関連性を仮定して、ペプシノゲン産生細胞株に siRNA によりノックダウンを行ってその相関性を明らかにするなど、優れた解析・考察能力と研究発展性を示している。今後の消化管癌における研究への進展が期待される。</p> | | | |
| <p>以上のように本論文は消化管癌の分子生物学的研究に貢献するところが大であり、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p> | | | |